

(8) 近畿



近畿地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しているものの、一服感がみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（_は上方に変更、_は下方に変更）。

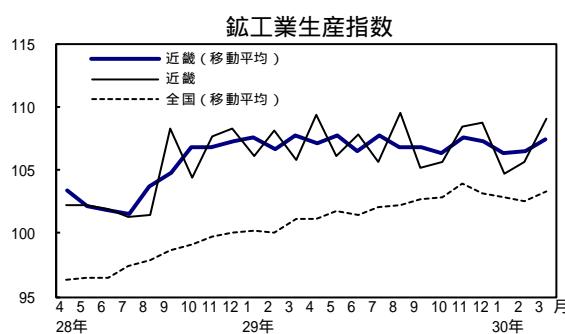
前回からの主要変更点

なし

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しているものの、一服感がみられる。

1 - 3月期には、「石油・石炭製品、化学、プラスチック製品」は、化粧品等が減少した。「電子デバイス、電気・情報通信」は、減少した。「汎・生産・業務用機械」は、ガスターインの生産等が減少した。「鉄鋼業、非鉄金属、金属製品」は、減少した。「窯業・土石、その他工業」は、増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10 - 12 月期	1 - 3 月期	1月	2月	3月
石油・石炭、化学、プラスチック製品	22.9	1.3	0.9	7.4	5.5	1.1
電子デバイス、電気・情報通信	18.0	0.7	0.4	1.1	7.3	9.6
汎・生産・業務用機械	17.9	4.3	2.0	3.3	4.0	4.6
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	12.4	0.9	0.7	7.2	2.6	10.7
窯業・土石、その他工業	9.6	0.1	1.6	0.8	1.9	0.5
鉱工業	100.0	0.7	1.0	3.7	1.0	3.2

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 1 - 3月期、3月は速報値。

(備考) 1. 22年 = 100、季節調整値。近畿の最新月は速報値。

2. 全国及び近畿の太線は中心3か月移動平均。

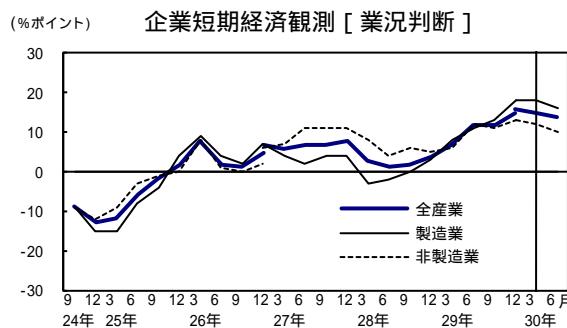
直近月は2か月平均。

3. 近畿は内閣府にて算出。

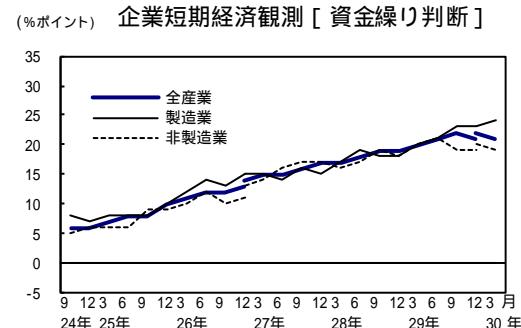
(8) 近畿

(2) 日銀短観における業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

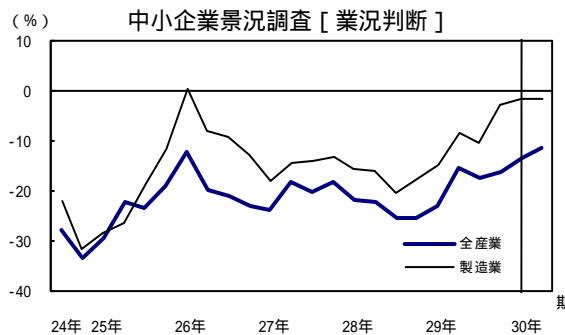
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考) 「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。30年6月は予測。
26年12月及び29年12月は新・旧基準を併記



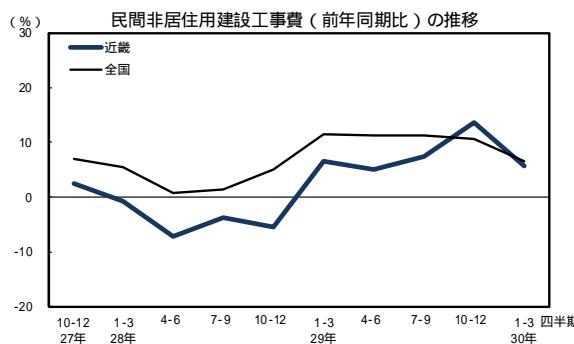
(備考) 「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。
26年12月及び29年12月は新・旧基準を併記



(備考) 「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。30年期は見通し。

景気ウォッチャー調査（4月調査結果）[企業動向関連（現状）]
「競合先が、低収益覚悟で参入してくるため、収益は大幅な減少傾向にある（金融業）」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は前年に比べて増加している。



(備考) 29年4 - 6月期以降は国土交通省「建設統計月報」
の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月
で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (3月調査)]
(前年度比、%)

	29年度実績見込み	30年度計画
全産業	9.6 (3.8)	1.8
製造業	14.4 (2.7)	3.6
非製造業	6.1 (4.6)	0.4

(備考) ()は前回(12月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (R D E I (消費))

1月は前月比0.5%減、2月は同0.6%増、3月は同0.2%増となった。

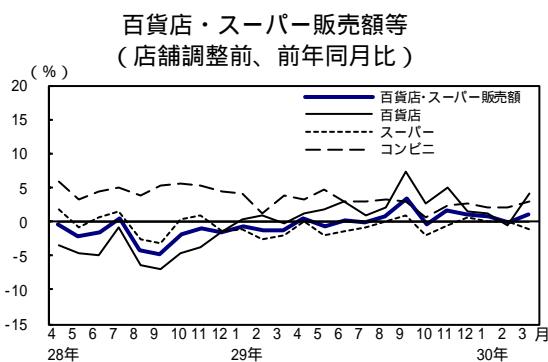
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、1月は、「身の回り品」、「その他の商品」が好調だったことなどから、前年を上回った。2月は、「飲食料品」、「その他の衣料品」が振るわなかつたことから、前年を下回った。3月は、「身の回り品」や「その他の商品」が好調だったことなどから、前年を上回った。

スーパーは、1-3月期は、農産物の価格が上昇したことで販売額が上昇したが、後半にかけそれらの価格上昇が下落に転じたことなどを受けて、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (4月調査結果) [家計動向関連(現状)]

「ゴールデンウィークの間際予約が、例年ほど入ってこない。事前予約は日並びの関係で良かったため、その反動ともみられるが、客の姿勢が一部を除いて内向きになっている。セールスをかけると、今回のゴールデンウィークは家でゆっくり過ごすといった声が多い(旅行代理店)」など「やや悪くなっている」とする回答が増加した。



	30年1-3月	30年1月	2月	3月
R D E I (消費*1)	0.3	0.5	0.6	0.2
百貨店・スーパー(*2)	0.5	0.6	0.1	1.0
百貨店(*3)	1.7	1.3	0.4	4.0
スーパー(*3)	0.3	0.1	0.1	1.2
コンビニ(*3)	2.5	2.2	2.2	3.1
乗用車(*4)	2.3	0.5	2.6	3.1
(季節調整値) (*4)	0.8	5.4	1.4	1.0

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

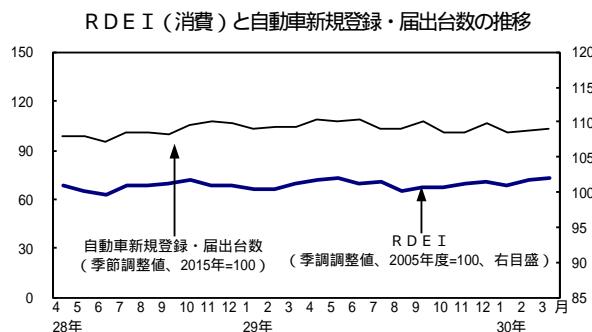
2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店・スーパー及びコンビニは、経済産業省の近畿(福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山)の値。

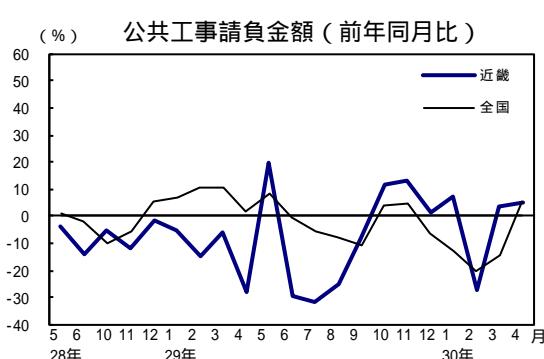
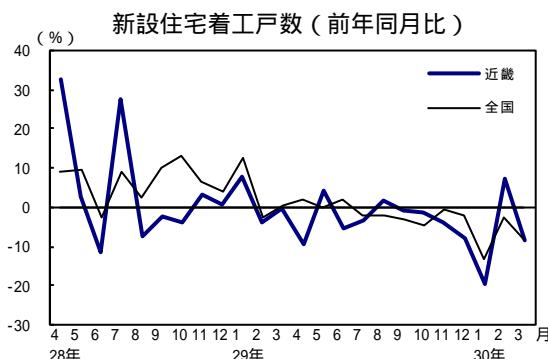
4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%)



(2) 住宅建設は前年に比べて減少している。

持家、貸家、分譲いずれも前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は29年度累計でみると前年度を下回っている。



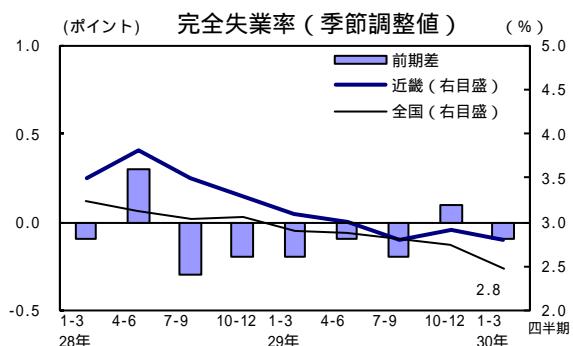
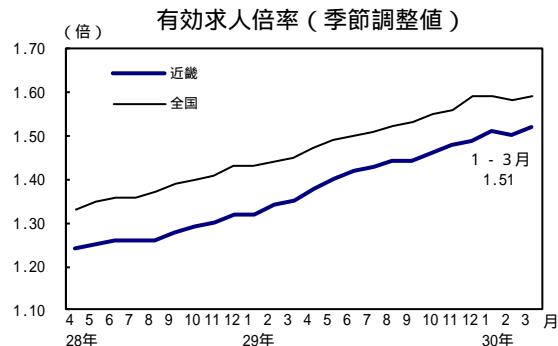
(8) 近畿

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（4月調査結果）[雇用関連（現状）]

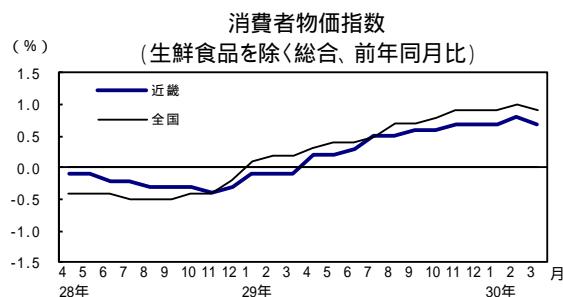
「新年度に入ってからも、派遣業界は好調に推移しており、分野を問わずオーダーが入っている。相変わらず人材不足は続いているが、これまで派遣先企業は人材を絞って採用していたが、ある程度条件を緩和しているのが最近の特徴である。それでもなかなかマッチングには至らない（人材派遣会社）」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	28年4-6月	7-9月	10-12月	29年1-3月	29年4月
倒産件数	563	561	541	537	168
(前年比)	5.8	9.6	6.7	6.1	3.1
負債総額	561	570	539	616	239
(前年比)	5.2	3.7	90.7	28.1	6.3



景気ウォッチャー調査(季節調整値)

